



大腸が吸収するものには、どんなものがあるの

大腸のおもなはたらきは、水分の吸収

大腸のおもなはたらきは、小腸からきたものから、水分を吸収することと、かすとして残ったものをためておくことで、栄養の吸収も、わずかながら行われています。

大腸の中には、およそ、100種類の細菌（小さな小さな生き物）があり、その数は、100兆といわれています。そして、細菌には大腸菌やビフィズス菌のような、よい細菌と、ウェルシュ菌のような、悪い細菌がいますが、よい細菌が、悪い細菌がふえるのを防いでいます。また、大腸菌は、食べ物の残りを分解するほか、ビタミンBやKという、ビタミンをつくるはたらきをしています。

大腸のつくりは

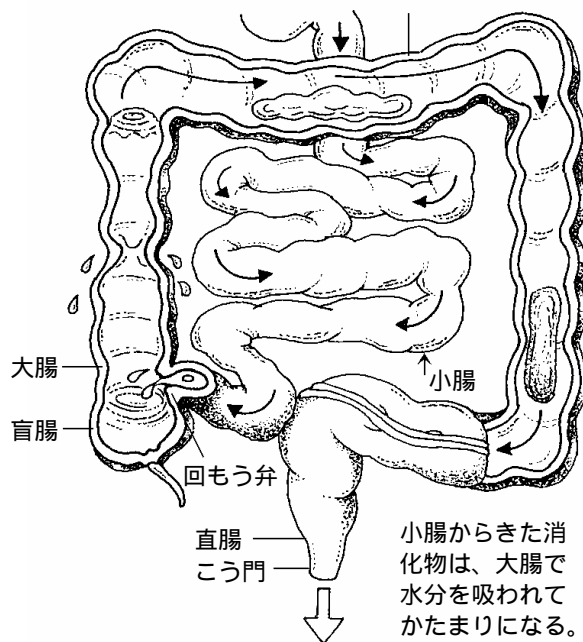
大腸は、盲腸、結腸、直腸の3つの部分からできており、長さは、大人で約1.5メートル、直径は、5～8センチメートルほどあります。大腸の入り口には、回もう弁というものがあり、大腸へきたものが、小腸へもどらないようにしています。

また、大腸の出口はこう門で、食べ物の残りかすの「うんち」が、ここから出ます。

(監修・保志 宏)

大腸のしくみ

結腸（大腸の盲腸・直腸以外の部分）



小腸からきた消化物は、大腸で水分を吸われてかたまりになる。

